

B—16 かつら用合繊および人髪 of 反射特性について

愛知教育大 ○日下部信幸
奈良女大家政 古里 孝吉

1. かつら用合繊と人髪 of 反射光分布を調べ比較した。塩素処理および過酸化水素処理による反射光分布 of 変化も調べた。

2. 試料は人髪 of 場合は太さ of 揃ったものを選んで Root 方向と Tip 方向とをそれぞれ黒い厚紙 of 枠に平行に揃えて並べてはりつけた。反射光分布は三次元変角光度計を用いて次 of 方法で行なった。

1 二次元的変角光度法

2 三次元的変角光度法

3 試料回転法 (正反射, 拡散反射, Jeffries 法)

反射特性値としては光沢度およびピーク of 角度によって示した。

3. 人髪は各反射光分布とも Root 方向に平行に入射された場合と Tip 方向に平行に入射された場合とはいちじるしく異なりスケール of 依存性が大きい。合繊 of 場合は人髪 of Root 方向に平行に入射された反射光分布にほぼ近似する。各処理により反射光分布に変化がみられる。